

第2回 流総計画再構築検討会 議事要旨

日時 平成26年1月16日 14:00～16:00

場所 合同庁舎2号館 国土交通省第1会議室

【目標の多様化について】

海域に対して処理場の季別運転を行う場合、河川水質も確認する必要がある。

基本方針の合意方法の案(1)の参考値について、現場での運転方法まで合意形成図るのは困難ではないか。

明確な目標（許容負荷量）を定めた方が現場の運転管理はやりやすい。

具体的な表現方法について議論するために、合意文書（直轄流総）の案を作成していただきたい。

【作業の簡略化について】

軽微に変更出来る範囲を増やしていただきたい。また、水質が良好な河川に対しての検討等、流総計画の変更にあたって作業を簡略化できる範囲を増やしてほしい。

流総計画では軽微な変更という概念はないため、実務上、作業を簡略化できるように検討したい。

【エネルギー消費量の考慮について】

エネルギー消費量は、水処理方式や汚泥リサイクルなどで分類した上で目標設定を考えた方が良いのではないか。

トップランナー的な処理場が損しないようにしていただきたい。

エネルギー消費量は稼働率が影響するため、稼働率も考慮するべきと考える。

エネルギー消費量の目標を設定し、流総計画で手法(担保)を検討するのか。

県の削減目標量は10年先で定めている。20～30年先の設定は難しくないか。

30年先のエネルギー消費量を議論するのは、のんびりしていないだろうか。

流総計画の中で、エネルギー消費量をどういう視点でどの検討について判断材料とすることを流総指針の中で示していただきたい。

流総計画では、流域全体でのエネルギー消費の効率化、処理水質とのバランスの2視点があると考えられる。

エネルギー消費量は、それ自体の将来目標を設定するのではなく、処理区域や処理方式を定める場合の考慮事項と考えている。

【エネルギーポテンシャルの算定について】

エネルギーポテンシャルは他の論点と異なり、必須で行う必要性について再整理が必要ではないか。

ポテンシャルが高くて利用されていない処理場を気付くためのツールという役割は新しい視点である。

【中期整備計画について】

中期整備計画と下水道法の事業計画との関係はどのようになるのか。
 中期整備計画と事業計画は整合していることが望ましい。

【エネルギー消費量の高い処理場について】

エネルギー消費量原単位が高い処理場の規模や処理方式を教えてください。

下図に示す A、B 処理場の概要は下表に示すとおりである。

表 処理場の概要

	A	B
自治体名	河内長野市	岸和田市
処理場名	滝畑浄化センター	牛滝浄化センター
日平均処理水量	93m ³ /日	175m ³ /日
処理方式	嫌気好気活性汚泥法	嫌気好気活性汚泥法

出典：H21 下水道統計

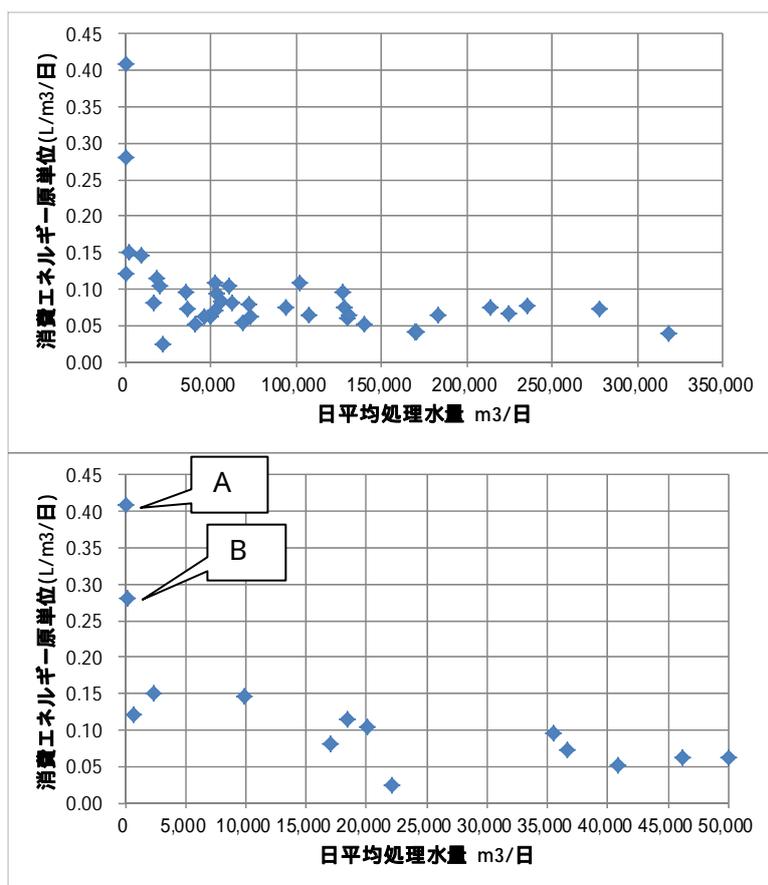


図 大阪府内下水処理場のエネルギー消費量原単位
 出典：H21 下水道統計を基に国土交通省が作成